

浜松市障がい者自立支援協議会 西・南エリア連絡会

第3回全体会 会議録

1 開催日時 令和6年2月8日 午前10時00分から午前11時43分

2 開催場所 西行政センター 3階 大会議室 (Web会議併用)

3 出席状況 ※敬称略

構成員	相談支援事業所まで	鈴木 宏幸 (会場)
	あさぎり	仲安 寛元 (会場)
	四季の郷	早戸 真規 (会場)
	好生会三方原病院	平野慎一郎 (会場)
	浜松市浜松手をつなぐ育成会 (障害者相談員)	伊藤 幸枝 (会場)
	ワークショップくるみ	袴田 みや (会場)
	可美地区社会福祉協議会	太田 智子 (会場)
	新津地区民生・児童委員協議会	澤根 緑 (会場)

事務局	浜松市西・南障がい者相談支援センター	後藤 翔一郎 (会場)
		古澤 則仁 (会場)
		長谷 瞳 (会場)
		谷内 俊介 (会場)
		小澤 理沙 (Web)
		大場 拓弥 (会場)
	浜松市中央福祉事業所社会福祉課南社会福祉G	内藤 淳 (会場)
	西社会福祉G	杉森 泉 (会場)

オブザーバー	浜松市障がい者基幹相談支援センター	大軒 優一 (会場)
		山下 由佳 (会場)

<欠席者>

構成員	浜松自立支援センター (障害者相談員)	水島 秀俊
	浜松市教育委員会指導課 (SSW)	長坂 聖子

4 傍聴者 3人

- 5 議事内容
- 1 開会
 - 2 報告事項
 - (1) 浜松市障がい者自立支援協議会
 - (2) 令和5年度西・南エリア連絡会 活動報告
 - (3) GH評価について
 - (4) 共同支援会議
 - (5) 西・南エリア連絡会 活動の振り返り
 - (6) その他
 - 3 閉会

6 会議録作成者 浜松市中央福祉事業所社会福祉課西社会福祉グループ 杉森 泉

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有・無

8 会議記録

1 開会	司会：浜松市西・南障がい者相談支援センター 古澤 則仁
2 報告事項	
(1) 浜松市障がい者自立支援協議会	区再編による相談支援センターの体制づくりについて説明（資料無し）
	※質疑応答無し
(2) 令和5年度西・南エリア連絡会 活動報告	資料に基づき説明
	<質疑応答>
	・当事者意見交換会ではどんな意見がでたのか。
	→ ざっくりしたテーマを持ちつつ3つのグループで行った。 子供の将来の生活について、生活内の困りごと、防災についてなど意見が出た。
	→ 当事者からは、通常の支援では聞けない話が聞かれ、貴重な機会となった。
	→ 事業所にジョブコーチが来てくれないという話が出たが、参加者の中に別の事業所でジョブコーチをしている方がいて、終了後に話ができていた。
	→ その場で心がすっきりして帰ることができた方がいてよかった。
	→ 2月15日に、振り返りを予定している。
	・事例検討部会の担当者交流会において、民生委員が孤立していたとはどういう状況か。
	→ 民生委員の方々に固まってしまう、活性化しなかった。民生委員は、

地域において個々の方とのつながりはあっても、事業所とのつながりは乏しいと思われる。こちらの配慮も足りなかった。

- ・ネットワーク会議はどのくらいの参加があるのか。交流の仕方等、地域の事業所をどう巻き込んでいくのか。
 - 参加は30人ほど。報告やシンポジウムなど、交流できるよう工夫を取り入れたが、成果としては十分でなかった。構成員と事務局との間で温度差があったと考えている。
 - いろんな事業所を巻き込む方法として福製品の販売などを考えており、2月22日は5つの事業所から参加をいただける。福製品はあくまでも交流の一環。営利目的ではない。

<構成員からのその他意見>

- ・事業所と居住地の位置関係について、空いている事業所に入るため、通所が大変になってくる。近ければいいというわけではないが。
- ・相談支援部会について、何目的で何として参加しているのか。それぞれのエリアでやっていること、西・南でやっていることをしっかり分けて行った方がいいのではないか。

(3) GH評価について

【ソーシャルインクルーホーム浜松雄踏町、
ソーシャルインクルーホーム浜松馬郡、あやめはうす浜松南】

- ・資料に基づき説明

<主な報告内容>

- ・昨年意見交換会を行い、市の協議会にて報告後、12月に浜松市内合同で事業者へのフィードバックを行っている。
- ・質問攻めの形にならないように配慮が必要。
- ・市内の事業所は増えている。今回、主担・副担をつけたのはよかった。

○ソーシャルインクルーホーム浜松馬郡

- ・日中をGH内で過ごす利用者が多い。
 - 個別支援に力を入れていくよう取り組んでいく。
- ・家族向けの満足度調査により、支援の質の担保に力を入れていく。

○あやめはうす浜松南

- ・ひきこもりの利用者に対しては、職員の研修体制の充実や、エリア連絡会活動への参加を促し、一緒に考えていく。
- ・防災面では、地域との交流を通して改善を図っていく。

※質疑応答無し

(4) 共同支援会議

- ・資料に基づき説明
- ・現在3件あり（1件は継続のもの、残り2件は今年度から）

- ① 今年度就労定着支援のモデルケースとして設定。
個々によって違うため一概には言えないが、本人にとってどのような支援が必要なのか、継続か次につなげるのか、本人の見立てをする。
- ② 当初は近くの短期入所を検討していたが、支援が入れば自宅での生活が可能なのではないか。本人の在宅生活での希望もある。
本人の障害特性の理解、共有が必要となる。
- ③ 医療的ケア児。特支への入学で検討が進んでいる。
スクールバスでは身体への負担もあり、逆算すると早朝4、5時起床→学校→放デイ→帰宅が夕方5、6時。
理想は地域の学校への通学であり、こういった環境を目指していかなければいけない。

※質疑応答無し

(5) 西・南エリア連絡会 活動の振り返り

<構成員からの主な意見>

- ・当事者は困り感を誰かに伝える手段がない。アンケートを利用するなど声にならない声をひろう工夫が必要。困り感をどのように見える化するかが課題。
 - みんな関心があることには取り組みやすいが、個々の困りごとに焦点をあてて課題として取り上げる、その機能はセンターとして弱かったかもしれない。
- ・エリアの協議会は関わる方が多く、関係機関をつなぐ役割を果たしていたと感じた。
- ・スタッフへのフィードバックがあまりできていなかったかもしれない。
- ・事業所が参加できる機会、工夫を作っていただけるといい。
- ・区の再編により相談は今まで通りでいいのか、中央区役所へ行かないといけないのか、わかりにくくなっている。
 - 現時点では今まで通り。将来的には変わる可能性もある。
- ・石川の地震のこともあり、福祉避難所の開設訓練をまた行ってほしい。周知も必要。
 - 防災については、エリアのワーキング結果を市の協議会に報告し、取り上げてもらえないか協議を重ねている。
市は体制整備を主として進めており、それと併せて防災における障害分野での取り組みを進めていく必要がある。
- ・防災の取り組みは日頃から進めていかないといけない。安全確認の手段や、避難所に登録に行かないと備蓄品は受取れないなど、課題は多い。
 - 福祉避難所の理解が進められたのはよかった。スタート地点として、まずは関心を持つことから。情報弱者にどう伝えるかが課題。
- ・不登校については、なかなか本人の声が聞けない。親の存在もあり、

本人の口から困り感が出てこない。

- ・どんな事業所があつてどんな方が通っているのか、あまり知られておらず、もったいない。民生委員やボランティア的に動きたい人を、地域のつながりを巻き込んでいろいろな会議に入れていく必要を感じる。
- ・当事者との意見交換はよかった。そこで出た意見を大事にしてほしい。
- ・当事者意識は大事、本人や家族の気持ちが置いてきぼりにならないことが必要。

当事者の意見交換会は、地区社協のそれぞれのサロンでやれるといい。地区の人が集まるので活用してもいいのではないか。自立支援協議会の大切さを理解してもらい、民生委員も参加しやすいようにしていく工夫が必要。

- ・事例検討など、みんなで考えることで知恵を合わせていく。
→ 個別ケースから地域課題が見えることもある。
- ・事例検討は、事例提供者の孤立感を緩和する機能もある。
- ・11月の構成員研修会で学んだことを持ち帰ることができた。
目的の共有を意識しながら参加して、勉強になった。
- ・令和6年度報酬改定があるが、集団指導についてはどうか。
→ まだ情報がおりにきていない。

(6) その他

- ・ワークショップくるみのインスタが開設された。
- ・手をつなぐ育成会の就労支援部会にて、12月10日に就労カフェを開催した。就労中の方の支援を目的に、今後3ヶ月に1回のペースで開催し、当事者の声を拾っていく。軽度の方は、障害支援区分やなかぼつのことを知らないことが多いため、そのような情報も提供したい。
次回の開催が3月10日。

3 閉 会 浜松市西・南障がい者相談支援センター 古澤 則仁

以上